

# ICMA年次総会における「日本のトランジション戦略」 に関するラウンドテーブルの開催等について

日本証券業協会

# ICMA年次総会における「日本のトランジション戦略」に関するラウンドテーブルの開催について①



2025年6月4日（水）～6日（金）の3日間にわたり開催された、国際資本市場協会（ICMA）年次総会（於フランクフルト）にて、カンファレンスのプログラムの一つとして、日本のトランジション戦略の意義等を伝えることを目的とした海外市場関係者向けのラウンドテーブルを開催。多くの市場関係者が出席し、活発な議論が行われた。

<b>タイトル</b>	日本のクライメート・トランジション戦略 (Climate Transition Finance in Japan and the Next Steps to Decarbonization)
<b>日時</b>	2025年6月6日（金） 午前10時40分～11時25分
<b>場所</b>	ICMA 年次総会 会場内会議室（Kap Europa Messe Frankfurt ‘Passat’ room）
<b>参加者</b>	約70名 海外市場関係者（機関投資家、海外発行体、投資銀行、他国系開発銀行、政府系機関、海外業界団体等）、 日本関係者（財務省、経済産業省、GX推進機構）、ICMA 等
<b>参加機関所属国 （五十音順）</b>	アメリカ、アラブ首長国連邦、イギリス、オーストリア、オランダ、ガーナ、サウジアラビア、シンガポール、 スウェーデン、台湾、ドイツ、ネパール、日本、ブラジル、フランス、ラトビア、ルクセンブルク
<b>当日の 主な内容</b>	①開会挨拶： 日本証券業協会 松尾 元信 専務理事 ②ICMA挨拶： ICMA ニコラス ファフ 副チーフ・エグゼクティブ（サステナブル・ファイナンス統括）〈司会〉 ③GX推進機構の概要・制度設計・課題等： GX推進機構 高田 英樹 理事 ④CT国債の日本での評価・今後の展望等： 財務省 理財局 佐藤 伸樹 国債企画課長 ⑤GX2040ビジョンにおけるTFの重要性等： 経済産業省 木原 晋一 資源エネルギー政策統括調整官 ⑥自由討議・質疑応答 ⑦閉会挨拶： ICMA 林 礼子 理事（BofA証券 取締役副社長）

# ICMA年次総会における「日本のトランジション戦略」に関するラウンドテーブルの開催について②

## 海外参加者からの発言等(抜粋)

- ICMAとして本日皆様を歓迎できることを嬉しく思う。また、専門的知見を持つ重要なメンバーに多数参加頂けたことは大変喜ばしい。昨年と比べても更に状況が進展しており、一層有意義な議論を期待している。
- 日本がGX推進戦略を発表し、広く周知を行い、かつよく考えられた内容であったことに賞賛を送りたい。その中でトランジション・ボンドが活用され、ICMAのグリーンボンド原則とも整合的な内容となっていた点も高く評価している。
- トランジションの戦略やプログラムの意図の明確化は大きなポイントであり、最終的に必要な技術が出揃った訳ではないため、全体としての方向性の明確化と包括的な取組みが重要である。この点、日本のトランジションアプローチは包括的であり、他国の参考になりうる素晴らしいモデルと考えられる。
- 日本のアプローチは、大きなインセンティブ (big carrot) が先にあり、その後規制 (big stick) が来る形となっており、良く練れた設計と評価している。
- ICMA原則では、グリーンを可能にする (Green Enabling) 活動にも重きを置いている。これは、最終製品の背後にある素材の利用可能性にも配慮しながら経済全体のグリーン化を進めなければ、ネットゼロの達成は不可能だからである。
- 日本がアジアにおける取組みの拡大に果たしている役割は非常に重要であり、今後は私が所属する中東欧諸国等他の地域にもこうした取組みが波及していくことを期待している。



# (参考) 第57回 ICMA年次総会・カンファレンスの概要



開催日程

2025年6月4日（水）～6日（金）

参加機関・者

ICMA会員、協賛団体他 約1150名（登録ベース）

開催地

フランクフルト  
（ドイツ）

## 今回のポイント

- 本協会では、**国際資本市場協会（ICMA）との連携強化**の観点から、従来よりICMA年次総会に協賛団体として**ブース出展**を行って協会の活動・日本市場のプロモーションを実施しているほか、**総会にあわせて開催されるカンファレンスに参加**している。
- 本年のカンファレンスでは、IOSCO事務局長、欧州投資銀行総裁らによるスピーチほか、多くの**パネル討議**、**分科会**、**個別セッション**が設けられた。また、**レセプション**の開催、**ブース出展**等による**ネットワーキング**の機会も提供された（プログラムは2～3頁ご参照）。
- 次回会合は、2026年5月27日～29日にイギリスのロンドンにて開催予定。



カンファレンス会場



カンファレンス会場の様子



出展ブースの様様

# (参考) ICMA総会プログラム①

[6月4日(水)・5日(木)]



14:30- 17:15	ICMA年次総会 (※総会のみ6月4日(水)に開催。総会はICMA会員のみ参加)
9:00- 9:05	カンファレンス1日目 (開会の辞: ウィルキンソン ICMA取締役会議長)
9:05- 9:45	パネル討議: 国際債券市場の見通し (業界リーダーによるフォーラム)
9:45- 9:55	基調講演①: ヒルデブランド ブラックロック 副会長
9:55- 10:25	パネル討議: 脱グローバル化、経済の分断、地政学的変化の中での国際金融市場と資本フローの展望
10:25- 10:50	基調講演②: マイヤーズ シグナム・グローバル 会長兼創設者 / 基調講演③: 周小川 中国人民銀行前総裁
11:10- 11:20	基調講演④: ロルツ ドイツ・ヘッセン州財務大臣
11:20- 12:00	パネル討議: 債券市場取引の進化
13:00- 13:10	基調講演⑤: カルビニョ 欧州投資銀行総裁
13:10- 14:20	パネル討議: 資金調達ギャップの解消 (プライベートクレジット市場の役割) / 証券化市場と規制 (学ぶべき教訓)
14:20- 14:30	基調講演⑥: エッカーマン ドイツ取引所取締役会メンバー
15:15- 15:55	パネル討議: SSA (外国ソブリン債、国際機関債、政府系機関債) の先駆的な取組みによる市場拡大 パネル討議: レポ市場の現状と将来の展望
16:00- 16:40	パネル討議: 債券発行市場の将来 (ビジョンと現実のバランスをどう取るか) / 貯蓄と投資の動員 (EUの成長と競争力の促進)
16:45- 17:25	パネル討議: サステナブルファイナンス市場を形成する逆風と追い風
17:25- 17:35	基調講演⑦: マウダーラー ドイツ連邦銀行第一副総裁
17:35- 17:40	閉会の辞

# (参考) ICMA総会プログラム②

## [6月6日 (金)]



9:00– 9:30

カンファレンス2日目

9:30– 9:40

基調講演⑧：ギャルソン ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン 国際安全保障部門准教授

9:40– 10:40

パネル討議：AI革命と債券市場への影響 / 資本市場のデジタルトランスフォーメーション

10:40– 11:20

**個別セッション：日本のトランジション戦略に関するラウンドテーブル**

11:15– 11:25

基調講演⑨：フェヒントラ アフリカ金融公社 財務サービス部門担当理事

11:25– 11:40

個別セッション：パスコー ICMA CE、ブエナベンチュラ IOSCO（証券監督者国際機構）事務局長

11:40– 13:05

パネル討議：新興国における債券市場の発展 / 職場環境におけるレジリエンスの構築

13:05– 13:15

基調講演⑩：サイモン・ジョンソン MITスローン経営大学院教授（2024年ノーベル経済学賞受賞者）

13:15– 13:20

閉会の辞：パスコー ICMA CE

※このほか、4日（水）および5日（木）夜にレセプションが開催された。

# (参考) 国際資本市場協会 (ICMA) について



- 国際資本市場協会 (ICMA) は、欧州を中心に世界約70カ国、約600の金融機関が加盟する国際団体であり、国際的な資本市場の発展に寄与している。チューリッヒ及びロンドンに本部を置いている。
- 本協会とは2008年に業務協力のための覚書 (MOU) を取り交わしており、日本証券サミット (ロンドン開催) 及び年次サステナブル・ボンド・カンファレンスを共催している。
- ICMAでは、毎年1回、グリーンボンド原則の策定・改訂を総会で採択した後、それらの原則類やサステナブルファイナンス市場についての議論の場として「Annual Conference of Principles」を開催。2025年の同年次総会は日証協と共催で11月6日に東京で開催する予定。
- また、ICMAのアジア太平洋地域事務所は、本協会が常設事務局を務めるアジア証券人フォーラム (ASF) にメンバー機関として加盟している。



Exhibitor



REGISTER NOW

